

『ティーチングスタッフによる国際経営用語500選』の出版

照 屋 行 雄

国際経営研究所は、国際経営に関する共同研究とその成果の公表を主たる事業としているが、経営学部や大学院経営学研究科に所属する学生・院生諸君に対する国際経営教育にもできるだけ貢献すべく努めている。これまでのところ、当研究所の国際経営教育に関する事業活動としては、具体的には次のとおりである。

- 1 国際経営教育のあり方に関する共同調査・研究を実施し、その成果を学部・大学院の教育実践にフィードバックしている。
- 2 機関誌『国際経営フォーラム』に“教育ノート”のセクションを常設し、教育現場での取り組みやその成果を個別にレポートしている。
- 3 複雑多様な国際経営に関する用語解説集を編集・出版し、学生・院生の学習の手引きとして活用できるように提供している。
- 4 経営学部の3・4年次生を中心に国際経営コンベンション（学部内のインターゼミナール大会）を開催し、ゼミ活動成果の発表を支援している。

さて、上記の3に関する教育事業として、2001年3月に『ティーチングスタッフによる国際経営基本用語集』を発行し、さらに、2004年3月に内容を一部改訂して『ティーチングスタッフによる国際経営用語解説』を出版した。そしてこの度、掲載用語を大幅に追加して新たな編集に基づき『ティーチングスタッフによる国際経営用語500選』（国際経営研究所出版広報室編集、2005年3月発行）を出版することとなった。

本書は、複雑で多様な国際経営の領域を解明する上で重要な基礎的・専門的用語を解説したものである。国際経営を基礎づけている諸概念を平易に説明し、国際経営に関する体系的な学習のための基礎を提供することを目的としている。

本書では、広く国際経営に関する分野から、重要で基礎的な専門用語を厳選して解説を加えることとした。具体的には、経営、経営史、経営学説史、経営組織、人

的資源管理、マーケティング、経営情報、経営環境、国際コミュニケーション、国際社会、簿記・財務会計、原価計算・管理会計、国際会計、会計監査、科学技術、健康科学、俳文学などの多様な領域から、全部で500用語が収録されている。収録用語の多くは、経営学部国際経営学科の1～2年次で学習する際に必要な基礎的用語である。

本書の主な特徴をあげると、次のとおりである。

- 1 国際経営の各領域に関する学習に必要な500の基礎的・専門的用語を1冊の解説書に収録し、何時でも何処でも利用できるように編集されていること
- 2 掲載用語の表記を明瞭にし、その配列を整序するとともに、500用語の索引に加えて多くの重要語句の索引を付すなど、学習上の利便をはかっていること
- 3 欧文略語および欧文表記については、巻末にアルファベット順でインデックス（索引）を付し、国際経営に関するキーワードの欧文知識の修得を支援していること
- 4 多様な国際経営を初めて学習する者が理解できるように、経営学部のティーチングスタッフ（専任教員）の執筆によるわかり易い用語解説となっていること
- 5 各用語の末尾に示された関連用語を参照することによって、各用語の学習の範囲を広げ、また、内容の理解を一層深めることができるように工夫されていること

本書は、上述のとおり、国際経営研究所が2004年3月に発行した『ティーチングスタッフによる国際経営用語解説』に掲載された344の用語解説に必要な加筆修正を加え、さらに、新たに156の重要な用語を追加掲載して内容の充実を図ったものである。編集に当たって掲載用語の大幅な増加や用語・語句索引の充実など、学習上の利便を高めるための創意と工夫が施されており、書名も表題のとおりに変更した。経営学部における基礎科目および専攻科目の授業や演習における学習はもとより、レポートの作成およびテストの準備のために役立つ内容となっている。また、卒業論文の作成や就職試験の対策などにも大いに活用して欲しいと思う。

本書は、神奈川大学経営学部のティーチングスタッフによって共同執筆されたものであるが、同スタッフの共同執筆による『ビジネスの国際感覚が身につくキーワード100』（照屋行雄＋行川一郎編著）が、2002年4月に中央経済社より出版されている。同書と本書は、掲載用語や編集方法などそれぞれの特徴を備えており、両者を姉妹書として有効に活用することを強く勧めたいと思う。

本書は、国際経営の学習に必要な基礎的な専門用語を収録しているが、この分野

においては新しい用語が次々に生まれている。本書掲載の用語については今後ともその基礎性・重要性を継続的にチェックし、必要な改訂を行うなどして内容の充実に努めたいと考えている。本書が、国際経営を学ぶ学生諸君の手元にあって、久しく利用されることを願ってやまない。

本書の執筆および編集に協力頂いた先生方並びに関係者の皆様に対して、心から感謝申し上げる次第である。

最後に、本書の出版に際して、神奈川大学国際経営学会より出版助成金の交付を受けた。記して感謝申し上げたい。